九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[009] 九州大学附属図書館研究開発室年報 : 2004/2005(9)

https://doi.org/10.15017/2833

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2004/2005 (9), pp.1-63, 2005-06-01. 九州大学附属図書館研究開発室
バージョン：
権利関係：

はじめに

近年の情報技術をめぐる環境の変化に伴い、大学図書館はより高度で効率的なサービス提供や業務運用を実現すべく、その対応を迫られています。加えて大学院重点化等に伴い、教育・研究活動の高度化、多様化、学際化の進展に対応し、利用者が必要とする学術情報を的確に提供するために、学術情報のサービス体制の再構築を図ることが求められています。また、昨年４月の国立大学法人化により、附属図書館は法人の中期目標・中期計画に沿って、教育・研究支援や国際連携活動等により一層積極的に取り組むことになりました。

このような状況の変化に柔軟かつ的確に対応するためには、大学図書館が研究開発機能を持つことが必要であり、本学では、平成８年２月の評議会決定により、同年４月附属図書館に研究開発室を設置しました。大学図書館における研究開発機能の重要性は、『大学図書館基準』（大学基準協会〈昭和27年〉）でも指摘されているとおりですが、本学においては、毎年研究開発事項を指定し、附属図書館の教育・研究支援活動の改善、強化のために研究開発を推進しているところです。

この一年間を振り返ると、４月には学内の諸施設に分散保存されていた古文書・古記録類を集約し一元管理する目的で、附属図書館に付設記録資料館が設置され、これに伴い研究開発室の中の古書・文書に関する分野が記録資料館に統合されました。また、この２月から８月までの６ヶ月間、韓国のソウル大学校中央図書館から客員図書館員をお迎えし、海外の大学図書館との職員交流も緒に付いたところです。さらに、10月から伊都キャンパスに理系図書館が開館し、サービスを開始されようとしています。これらはいずれも、研究開発室において調査、研究を進めてきた事項であり、その成果が形となって表れたものと評価されます。

平成17年度は、平成13年度に研究開発室の存続が認められてから５年目の節となる年であり、さらに５年間の存続を認めていただくべく一層精力的な活動を行っているところです。研究開発の成果は、毎年『附属図書館研究開発室の概要』として取りまとめ、刊行・公開してきたところですが、今年度からは、『附属図書館研究開発室年報』として、装いも新たにして刊行することになりました。関係各位のご助言を仰ぐ次第です。

これまでの附属図書館研究開発室の活動に対する総長はじめ関係者の皆様のご理解とご支援に対しまして厚く御礼申し上げますとともに、研究開発室員の皆様のご努力に対しまして深く感謝申し上げます。

平成17年６月

九州大学附属図書館長

今　西　裕一郎